

高清水自然公園散策（令和 元年 6 月 18 日（火））

前年の 6 月に行きたいと考えた「高清水自然公園」へ「ヒメサユリ」を見に行くことにした。ビスターリ例会でご提案したが、参加いただける方がおられず、小生が一人で出掛けることになった。それで天気予報を案じて 18 日（火）に決めた。

行きは「東武浅草：6:30 発“リバティ会津 101 号”」、帰りは「会津田島：15:00 発”リバティ会津 140 号“」にした。家を出る時には少し雲が掛っていたが、段々晴れてくるだろう。乗ってみるとやはり乗車率は 30%位だった。「リバティ号」の車輛は比較的新しくて快適だった。

電車は定刻 9 時 44 分に会津田島駅に到着、すぐ「ひめさゆりシャトル」を頼みに「みなみやま観光」の窓口へ行く。会津田島駅から「高清水自然公園」まではタクシーでも約 50 分掛り、かなり遠い。有難いことに「お一人様、¥2,500」で、往復乗せてくれ、しかも現地での滞在時間は自由だという。車は引き返すのではなく、客がそこに戻るまで待ってくれるという。運転手と車を半日も拘束して¥2,500 では、商売にならないだろう。これは「出血大サービス」だろうな。

10 時にタクシーで田島駅を出発、10 時 50 分に「高清水自然公園」に到着した。目の前にすり鉢状の斜面が広がる。「ヒメサユリ」の開花状況は 4 分咲きといったところかな。“一面ピンク色”という訳にはいかないが、私としては十分満足できる咲き具合だ、まだ蕾が多く、色褪せた花は全くないからだ。真夏の日差しを思わせる青空の下で、ピンク色がとても映える。

園内には縦横に木道が設けられていて、歩き易い。「ヒメサユリ」は「ワラビ」と同居しているが、相性が良いらしい。小さな若苗に対しては日光を幾分和らげる働きがあり、育った株には風を和らげてくれるとか。またワラビの根はモグラから守ってくれると。実生から 5 年位で花を一輪付け、その後毎年一輪ずつ花数が増えてゆく。開花まではカタクリの花と同じ位の年数が必要なのだ。ここは南会津町の管理下にあり、園内には「ネイチャーガイド」数名と「監視員」が 3 名ほどいた。ベンチが 3 ヶ所ほどあったが、“園内での飲食禁止”とかで、熱中症予防の水を飲むくらいきりできない。

約 1 時間、園内を散策した後、11 時 50 分に来る途中にあった「南郷スキー場」の「ヒメサユリ」と「ニッコウキスゲ」を見に行く。ゲレンデに着くと運転手さんはコースの一番上まで連れて行ってきて、あと花を楽しみながらゆっくり下ってくれば良いと言ってくれた。途中の原っぱで青空と花を楽しみながら昼食を摂った。こちらの「ヒメサユリ」は全般に株がまだ小さく、しかも既に満開を過ぎつつあった。一方、「ニッコウキスゲ」はあちこちに群落で咲いているが、こちらも満開を過ぎつつある花がある。だが青空の下でピンク色の花と黄色の花、緑の草のコントラストはよいものだ。「高清水自然公園」にもここにも“電流”を流した柵が張られている。鹿よりも猪除けらしい。

二ヶ所で「ヒメサユリ」を堪能して、13 時半に会津田島駅に向かった。駅構内の郷土土産店でお土産を調達して、15 時 00 分発の「リバティ 140 号」で帰途についた。

以上 陽田

